

宮田珠己
Tamaki Miyata

英語とモノマネ



イラスト=筆者

わたしは英語が話せない。例によって都合八年も勉強したのに、結局旅行者レベルの片言しか話せないままである。英語が話せる人は、あるとき、それまではただの音の羅列だったものが、すべての意味が、一気に流れ込んでくるような瞬間があつて英語が体に居つく、という体験をする。聞く、その瞬間はわたしに身に、ついで起つてきた。

しかしまあ、ふつうに考えてだ。八年もやつて話せないとは一体どういふことかと思つた。もちろん個人的な資質もあるが、わたしは英語の授業がとくに苦手ではなかつた。少なくとも学校のテストは標準よりはできたと思つた。そのわたしが話せないといふことは、日本人の半数以上が無駄な八年、もしくは六年、あるいは三年を過ごしていると考えてもいいのではない。仮に日本の人口をざっと一億人としても、平均しての八五億年ぐらいは無

駄にしていることになる。数字で見ると、日本人は前カンフリア時代ぐらしか英語を無駄にしてきた計算である。

何が間違っているのか。何が間違っているのか。授業が詰め込み過ぎなのか。もしくは文法ばかり教えているからか。それとも教員の絶対数が足りないからか。あるいはひょっとして日本語と英語の間に関係的な断絶があるのか。そんなことはわたしにはわからない。話せないわたしに英語の正しい教え方なく、ましてや日本語と英語の本質的な違いがわかるはずもない。ただ、この問題について議論されるとき、ある事実がどうしても見逃されている気がする。話せない身で僭越ではあるが、その事実について一度書いておきたいと思つた。

それは、中学一年の、まさに英語を習いはじめた当初を思い出してみるとはつきりする。りんごを例にしよう。

先生が叫ぶ、「さあ、みんないっしょに、アポー」
一回「アポー」
アポー？
ここで言いたいのは、正確な発音と日本語表記のズレ、つまりアポーなのかアップルなのかという問題ではない。アポーではなくて、英語を本物らしく発音するのはなかなかかつかつち悪いという現実だ。もちろん、今のわたしならそうは思わない。かつかつち悪いと言えれば、むしろかつかつち悪い。アポー。

先生が率先して、言つた。先生「あ、こんばんわ、タムラマサカズです。」
一回「あ、こんばんわ、タムラマサカズです。」
先生「ジャイアントのナガシマです。いわゆるひとつのあ。」

授業中、妙にうまく発音している奴がいると、でえい何言つてやんでえ、とへつに江戸っ子じゃないんだけど、冷やかしたくなつたものだ。アッブルを、アポー。その気になつて発音しているところがたまらなくむずかしい。自分が先生にあてられてひとり発音するときには、わざとそこそこ下手な発音でやり過ぎた。本当はうまく言えそうという予感があったのだが、あえてその気になつて恥をかかすまででもない。ちょっとそれらしい発音ぐらひが一番イヤなガジヨンなのだ。何をくだらないことを気にしているのか、と思つてもいい。恥ずかしいとか言つてるから日本人はだめなんだ。たしかにそうだ。しかしそこに自己陶醉が見えるとき、中学生の自意識はそれに耐えられないのである。

先生「あ、こんばんわ、タムラマサカズです。」
一回「あ、こんばんわ、タムラマサカズです。」
先生「ジャイアントのナガシマです。いわゆるひとつのあ。」

英語の授業における「発音」が中途半端につまみのも考えもの」といふこの心理状態は、つまりモノマネをするときの恥ずかしさと同質のものとはわたしは見えない。実はわたしは部屋でときどき『タクシードライバー』のロバート・デニロのモノマネをすることがある。なぜだ

愛書狂

この数ヶ月間ずっと飯のことばかり考えていた。飯、つまり日本人の主食についてだ。日本は米文化の国だといふことになっていて、けれども、探してみると米(飯)に関する資料は意外なほどに少ないのである。結局、一番役に立つたのは民俗学的な聞き書き集だった。農山漁村文化協会発行の『日本の食生活全集』全50巻。『聞き書 東京の食事』、『聞き書 大阪の食事』など都道府県別に1冊ずつの編集。八レの食ではなくケの食を調査した労作で、これは日本の財産といつてよい。私も何冊か持っていて、この期にあつた数冊買ひ足そうと思つていたので新刊書店にはすでにない。仕方がないので図書館に丸一日籠もつて日本全国の食を旅した。本にはやはり物量も大切だ。東日本と西日本あわせて20冊分くらいに目を通すと、やつと日本の食生活の全貌が見えてくる。日本人、白米なんか全然食へてませぬ。麦飯、かて飯、粥、雑炊、団子、饅頭、雑穀芋……。驚いたのは農民が米を売った金で安い外米(南京米)を買つていたという事実である。知らなかつた! このシリーズの発行は80年代。調査対象は昭和初期で、当時主婦だった女性が主たる語り手として選ばれている。年齢的に考えると、この時期がラストチャンスだったのだと思つた。ところで、私は太平洋戦争中の食について調べようとしていたのである。「日本の食生活全集」はその予備知識のつもりで読んだのだが、戦争中の食となると資料はさらに乏しい。といつか皆無に等しい。芋の蔓まで食べた等の断片的な話があつても、きちんとした調査は行われていないのだ。今はまさにラストチャンス。同じ手法で誰か調査してくれないかしら。(洗)

魔術的作家の生涯

「ボルヘス伝」

ジェイムズ・ウッドガム 著



である本書は、先行研究書や伝記への目配りはもちろん、血縁者や友人知己、未亡人マリ・ア・ユタマなど、作家と接した多くの人々へのインタビューをもとに巨匠の風貌をあますところなく描き出している。

ブルースト、カフカ、ジョイス、ベケットらと並んで二十世紀文学に巨大な足跡を残したボルヘス。ボルヘス、虚構皮膜の間を行くその魔術的な語り技法は、のちの作家たちに多大な影響を及ぼした。ガルシア・マルケスやカルロス・フエンテスといったラテンアメリカ作家はもとより、カルヴィーノ、エコら現代の優れた小説家の多くがボルヘスの影を刻印されている。それほど大きな存在だったボルヘスは、皮肉なことにただ一編の長篇も書いていない。彼の書いた小説はすべて、きわめて短い物語なのである。

（平野啓吾訳）四六判 四七六頁＋モノクロ写真二六頁 本体三三〇〇円

絵画解説の冒険

「なにも見ていない」名画をめぐる六つの冒険

ダニエル・アラス [著]



取りあげる絵画はフランチェスコ・デル・コッソ「受胎告知」、ティツィアーノ「ウルビーノのヴィーナス」、ペラスケス「ラス・メニーナ」など全部で6点。

「新しい美術史学」の旗手による美術工芸、書簡形式など、さまざまなライクシヨンの語り口で新しい絵画の見方をたのしく伝える。

現代の最も優れた美術史家が自由かつ生き生きとした口調で語る、先入観を排した新しい絵画解説法。

（宮下尚朗）四六判 二二〇頁 本体二六〇〇円 9月下旬発売

試練と感動の物語

「天国までもう一步」

アン・ナ [作]



豊かな暮らしを求めて移住する両親とともに、韓国少女ヨンジュは夢の国ミシグク（アメリカ）へやってきます。まったく言葉がわからないまま小学校へ入ったヨンジュは、それでもすぐに友達をつくり楽しい学校生活を送りはじめます。でもヨンジュの両親には辛い生活が待っていました。母はレス

全米図書館協会がもっとも優れたヤングアダルト小説に贈るプリッツ賞を受賞した本書は、韓国系女性作家のデビュー作です。豊かな暮らしを求めて移住する両親とともに、韓国少女ヨンジュは夢の国ミシグク（アメリカ）へやってきます。まったく言葉がわからないまま小学校へ入ったヨンジュは、それでもすぐに友達をつくり楽しい学校生活を送りはじめます。でもヨンジュの両親には辛い生活が待っていました。母はレス

巨匠が描く愛の物語

「トリエステの謝肉祭」

イタロ・スウェーヴォ [作]



アドリア海の真珠といわれる美しい港町、トリエステを舞台に四人の男女が織りなす愛の物語。主人公エミーリオは35歳の青年で、病弱な妹アマリアと二人暮らし。会社勤めをしているが、文学的な野心を持ち続けている。エミーリオの友人で彫刻家のステファノは、プライドが高く、野性にあふれているが、彼もまた世

俗的な成功とは無縁である。そんな彼らの単調な日常のなかに飛びこんできたのが、金髪で長身の美女アンジョリーナ。エミーリオを夢中にさせる彼女は、現実的で、生命力に富み、複数の男と関係をもっている。エミーリオはアンジョリーナに振り回され、彼女をモデルにするステファノに激しい嫉妬心を抱く。

英国ブッカー賞作家の問題作!

「越境」

パット・バーカー [作]



舞台はインランド北部、児童心理学者トムが川辺を散歩しているとき、突然、姿を現わした青年が川に投身自殺を図るが、トムに救出される。トムが病院に青年を見舞うと、彼がまだ十歳だった十三年前に老女を殺害し、終身刑を科せられたタニーであることを知る。タニーは服役後、新しい名前をもらって釈放され、大学生になっていた。実は、トムはタニーの裁判の際に彼の精神鑑定を行い、タニーが死とはどういうことかを理解して

喩えで広がることばの世界

「比喩の日本語」

榎谷泰明 著



比喩は、あるものを別のものと比べて喩えることで、その手法は大雑把に類別すると、直喩と隠喩（暗喩）とに分けられる。直喩は「盆のような月」など、「よつな」「このとき」などを用いて、あるものと別のものを結びつける方法。盆に喩えることで満月だと理解できる。一方隠喩は、白髪を「頭に霜をおく」というように、本来無関係なもので、白さを共通項にして暗示させる手法。表現者の想像力の豊かさを満喫できる。比喩表現は、文芸の目的ではなく、手段にすぎない。けれどもおももしろい比喩との出会いは読書の喜びを増し、ステキな比喩を知ると、何かの折に使ってみたくなるだろう。

良質へのこだわりを描く

「山の上ホテル物語」

常盤新平 [著]



山の上ホテルは、一度そのサービスを体験すると、たちまちファンになってしまおうホテルだ。著者も山の山の上ホテルを好む一人である。直木賞受賞第一作はこのホテルで執筆したし、その後のつぎあいても長い。本書は、創業者や支配人など多くの裏方たちを主人公にし、このホテルがもつ「良質」へのこだわりを描く、静かな物語である。（四六判 一三〇頁 本体一九〇〇円 9月下旬発売）

文章の音楽的魅力に酔う

「吉田秀和全集 音楽の時間」

【第 期・全6巻】

20巻の構成も前巻と変わらない。収録作品は、今月の一枚は一九九〇年まで、音楽展覧は一九八七年まで、音楽会批評は一九八六年まで掲載順に並べてある。本書も演奏について多くが語られているが、主題に肉薄する柔軟で複層的な文章には、何度読んでも新鮮な驚きを感じさせられる。二部の「音楽会批評」は、今回はじめて本になるもので、ジェシー・ノーマンの真に迫った至芸が、さらにはヨーヨー・マの覇気満々の、あるいはブレンデルの円熟した演奏などが紹介されている。演奏家の感性を余すところなく掬いあげて批評したコンサート評も、著者が膨らんでいく大きな交響曲の深く長い音楽体験から生まれたもので、明晰である。

（渡辺裕解説）四六判 六一八頁 本体四五〇〇円



白水社

名著リクエスト復刊 02

全国有力書店にて10月上旬よりブックフェアが開催されます

世界の知恵

人生を豊かにする名言集

国松孝一編
杉浦博 鈴木武樹 渡辺健訳



古代ギリシア・ローマ・インド、中国から近代ヨーロッパまで、偉大な作家・思想家・芸術家・政治家たちの名言名句を一巻に編んだ、まさに人類の知恵と結晶とも言つべき名言集。孔子、アリストテレス、シェイクスピア、ナポレオン、ゲーテらの含蓄に富む言葉は読者に深い感銘を与える。

A5変型/四〇〇頁/本体一八〇〇円

わが生涯より

詩と真実抄

ゲーテ
斎藤栄治訳



近代の意味における真の自己を創始したものととして、世界文学史上かくれない名作とゆるぎない地位を維持する大著の抄訳。誕生から二十六歳までの疾風怒濤の若き日に限定し、極性と高昇という神祕的法則に従い、自らの生涯を支配した「根本的真実」について、集約的に、また象徴的にふりかえる。

A5変型/二九八頁/本体一五〇〇円

トルストイ 人生・宗教・芸術

トルストイ
原卓也編訳



人は何のために生きるのか、神の教えはどのように理解すべきか、はたして芸術とは何か……『戦争と平和』や『安娜・カレーニナ』など、トルストイの大長篇小説の根底に流れる思想的な精髓が、あますところなく語られてゆく。素朴な生活に魂の救済を求めつづけたロシアの文豪による、幸福論。

A5変型/一九二頁/本体一五〇〇円

七つの歴史的対決

ゴルトシュミット・イェントナー
金森誠也訳



天才はしばしば世間から誤解される。だが、天才同士が対立した場合には、いっそう悲愴な緊張が生じる。皇帝ハインリヒと法王グレゴリウス、ミケランジェロとダヴィンチ、ワグナーとニーチェなど、対立し、共存することなく終わった男たちの苦悩に満ちた宿命的衝突を歴史的事実によって再現する。

A5変型/二八六頁/本体一五〇〇円

中世への旅 騎士と城

ハインリヒ・ブレイヒャ
平尾浩三訳



ヨーロッパの騎士文化最盛期の騎士たちの日常生活を、ドイツを中心に、豊富なエピソードをまじえながらわかりやすく語る。城での生活、食物と衣服、騎士道と騎士文学、日々の仕事と娯楽、合戦と攻城のありさま、十字軍遠征などを目的のあたりに生き生きと描き出す。歴史読み物にして中世史の史料。

四六判/二五二頁/本体一四〇〇円

中世への旅 都市と庶民

ハインリヒ・ブレイヒャ
関楠生訳



騎士階級の没落の後に文化の担い手となったのは都市市民であった。本書は、都市が独自の発展を遂げた中世末期1300年頃から1500年頃にかけての都市の住民および農村の人々の生活の実態を描写する。都市の風景、住宅、服装と食生活、祝祭、職人とギルド、学校と病人、賤民とされた人々など。

四六判/一五六頁/本体一四〇〇円

ブルーノ・ワルターの手紙

ロッテ・ワルター・リント編
土田修代訳



娘ロッテによって編纂された書簡集。二十歳前の修業時代から没年までの巨匠の人生履歴が綴られている。「世界で最も人気のある指揮者」の魅力ある人格と暖かい人間性が、さらにロマン派音楽を経て古典的明澄を求めてゆく精神の軌跡が随所に垣間みえる。書簡芸術の珠玉の名品。

四六判/三九六頁/本体三二〇〇円

音楽のために

ドビュッシー評論集

杉本秀太郎訳



音楽を愛するとはどういうことか? ドビュッシーの熱烈な魂がそれに答える。作曲家論、音楽教育、新作発表の演奏会評等。ここには世紀末から二十世紀初頭の音楽の全てがある。旧著、クロウ・シュルツに未発表原稿33篇と20篇のインタビューを加え、この反ディレッタントの全貌を編年体で再構成した完璧な評論集。

四六判/三四八頁/本体三六〇〇円

極地に消えた人々

北極探検記

パセツキー
加藤九祚訳



スパイの手になる偽りの地図により北海の孤島で命を落としたベリング、幻の島を求めて北氷洋に消えたテ・ロングやトリー、気球で北極横断を企てたアンドレーの悲劇など、北極の厳しい自然と風物を相手に、極地の謎の究明に命を賭けた探検家たちの日記や手記を基に書かれた不屈の魂の物語。

A5変型/二八八頁/本体二六〇〇円

アムンゼン

極地探検家の栄光と悲劇

エドワール・カリック
新関岳雄 松谷健二訳



一九二二年十二月、それまで踏破不能といわれた南極を征服したアムンゼンは、北西航路の発見など、数多くの業績に輝く学術探検や航空機時代への道を開いた先駆者でもある。氷原や氷山に隔絶された大自然を前に、夢の実現に命を賭けて戦い、「最後のヴァイキング」と呼ばれた男の劇的な生涯を描く。

A5変型/二六一頁/本体二六〇〇円

ヒマラヤ巡礼

デイヴィッド・スネルグロウ
吉永定雄訳



英国の仏教学の碩学が鎖国を解いたばかりのネパール西部のチベット人居住区を探検、興奮と労苦に満ちた旅の様子を記した紀行の名著。仏教がインドからヒマラヤを越えてチベットに如何に伝わったのか、古寺の仏像や壁画に関する造詣、最奥トルボ地方の苛酷な環境にすむ人々の生活を描いた記述は圧巻。

四六判/三八二頁/本体二九〇〇円

イエス伝研究史

全3巻・分売不可

シュヴァイツァー
遠藤彰、森田雄三郎訳



過去の数々のイエス伝の綿密な歴史的美証的業績を、シュヴァイツァー独自の見解、すなわち「徹底的終末論」によって検討しなおした壮大な研究史。イエス伝研究を生き生きと浮き彫りにする歴史的思想的記述だけでなく、同時に博士自身の「イエス伝」になっている。「史的イエス」に関する古典的名著。

四六判/四〇六頁/三七二頁/本体一四〇〇円

シェラー著作集

【全15巻】
新装復刊



限定600セット

10月下旬発売
予約受付中!

四六判・平均375頁・セット函入
セット本体56,000円 [分売不可]

飯島宗享・小倉志祥・吉沢伝三郎編

本著作集は分売いたしません。
注文が満数になり次第、締め切らせていただきます。
小社に直接お申込の場合は、代金前払いとさせていただきます。

- 1 倫理学における形式主義と実質的価値倫理学(上) 吉沢伝三郎
- 2 倫理学における形式主義と実質的価値倫理学(中) 吉沢伝三郎・岡田紀子訳
- 3 倫理学における形式主義と実質的価値倫理学(下) 小倉志祥訳
- 4 価値の転倒(上) 林田新一・新畑耕作訳
- 5 価値の転倒(下) 大谷愛人・小泉仰・柏木英彦・小松光彦・樽井正義・大久保正健訳
- 6 人間における永遠なるもの(上) 小倉貞秀訳
- 7 人間における永遠なるもの(下) 亀井裕・柏原啓一・岩谷信訳
- 8 同情の本質と諸形式 青木茂・小林茂訳
- 9 社会学および世界観学論集(上) 飯島宗享・上妻精三・浦秀春・河上正秀・駒井義昭訳
- 10 社会学および世界観学論集(下) 飯島宗享・三浦永光・平木幸一郎訳
- 11 知識形態と社会(上) 浜井修訳
- 12 知識形態と社会(下) 弘睦夫・津村裕二訳
- 13 宇宙における人間の地位/哲学的世界観 亀井裕・山本達・安西和博訳
- 14 初期論文集 小倉志祥・鈴木文孝・五十嵐清彦訳
- 15 遺稿集 浜田義文・水野清志・田島孝・小林靖昌訳



「コレクションフランス語 書く」(CD付・改訂版)

原田早苗、萩原芳子、水林 章、田島 宏[著]

フランス語で書くために必要な知識を、さまざまな観点からまとめた実際的なマニュアルです。書くときの辞書活用法、日本人には特に難しい冠詞の選び方、目的に合った文章の書き方、日本語からフランス語への発想転換法、表現モデルの増やし方、フランス語の論理展開に従った書き方等。そして最後は、ある学習者が書いた作文を素材にし、それを実際に添削しながらよりフランス語らしい表現に変え、構成を整えてゆく添削座談会でしめくり。外国語作文の醍醐味を味わえる一冊です。 [2色刷] A5判 242頁 本体2800円

「ドイツ語練習問題3000題」(改訂新版)

尾崎盛景、稲田 拓[著]

ドイツ語の基本文法、作文、訳読をマスターするための総合問題集。初版刊行以来23刷を重ねた超ロングセラーの改訂版です。新たに紙面もA5判に拡大されて読み易くなり、もちろん新正書法も取り入れました。全34課、各課とも「基礎問題」「発展問題」「応用問題」の3段階方式になっていますので、学習者の進度に合わせて利用できるのが大きな利点です。自分のレベルを知り、数多くの問題を解いていけば、実力のアップに確実につながるでしょう。授業の補助に、また独検の突破に最適の一冊! A5判 194頁 本体1800円

ベストセラーの入門書シリーズ《エキスプレス》にCDが付きまして!



CD エクスプレス

各A5判

速く着実に「読み・書き・話す」ための基礎がマスターできると大好評。語学の白水社が贈る、入門書の決定版!

- ▶ オランダ語 桜井 隆[著] 【2色刷】151頁 本体2100円
- ▶ ノルウェー語 横山民司[著] 154頁 本体2300円
- ▶ インドネシア語 柴田紀男[著] 【2色刷】161頁 本体2300円

- ▶ セルビア語・クロアチア語 中島由美[著] 149頁 本体2500円
- ▶ アラビア語 奴田原睦明・岡 真理[著] 【2色刷】153頁 本体2500円
- ▶ フィンランド語 松村一登[著] 157頁 本体2600円 [CD 2枚]
- ▶ ロシア語 桑野 隆[著] 【2色刷】145頁 本体1900円
- ▶ 台湾語 村上嘉英[著] 【2色刷】145頁 本体2400円
- ▶ スウェーデン語 横山民司[著] 【2色刷】148頁 本体2300円

「0855」
「フランス文学の歴史」
ルネ・ババル[著]

ギリシア・ラテンの人文学をモデルとする共通の文化のたまたかで、フランス語の書物や演劇は作り上げられてきた。そのよつな状況において、「フランス語で作品を書くこと」の本質的な問題点とは、果たして何だったのか? 『ストラスブールの誓約』から、ラブレ

「0854」
「子どもの絵の心理学入門」
フリッツ・ウロン[著]

日本の子どもの絵の特徴として、まず挙げられるのは、「たとえ、目、実際の目よりもずっと大きく、漫画やアニメの影響を受けています。全体的に、ペッサンの輪郭は正確で、絵をとて描き慣れていることがわかります」(本書「日本語版への序」より)。

子どもの絵を「読む」ためには、どのような基本ルールを知っていたらよいのだろうか? 本書は、子どもたちが描く多様な具体例をひきつつ、コンピュータ

科学など最新の研究成果を踏まえ、発達心理学の観点から解説してゆく。学校教育関係者や、子どもの美術教育に関心のある人には必読の一冊。カラー図版多数収録。(加藤義信・井川真由美共訳 新書判 一六〇頁 本体九五一円)

鳥・木……(女兒、6歳)

色の使用 (男児、4歳)



を経て、バルザック、プルースト、ランボ、ベケットやイヨネスコの不条理劇まで……フランス文学は、さまざまな事件や物語や思想の「翻訳」を通じて豊かになってきた! 本書では、数々の名作が引用紹介され、それらが書かれた背景が、明快に語られている。着眼点が面白い、画期的なフランス文学史入門。

(矢野正俊訳 新書判 一九〇頁 本体九五一円 10月上旬発売)

索引のあるなしで本の値段は、ちはずいぶん違ってくる。とはよくいわれるところ。しかしに分厚い本の場合、これがないと読み返すときに使い勝手が悪くなる。このページ数の確定する本づくりの最終段階での作業だから編集者にとつては胸突き八丁のよつなものだ。とはいえ、人名地名だけでなく事項索引がそなわっている。そこを起点にしてあれこれ想像力をたくましくすることができて何倍もた

のしめる。この夏、手にした。『緑日お散歩図鑑』(オオカワヨウコ、廣済堂)はほぼ全ページにイラスト(絶滅寸前の山吹鉄砲の仕組みも見開きで詳解)が入り、緑日カレンダー(東京ではほぼ毎日緑日に行ける!)もついている。また「お祭り縁日虎の巻」(帯「帯」)も、縁日好きにはこたえられないこの薄手の本にも「海ほろぎ」「カタナキ」など泣かせる事項索引が百以上ついている。

白水Uブックス.....海外小説の誘惑

「U140」『バーナム博物館』
スティーヴン・ミルハウザー[作]

魔術師、博物館、気球ゲーム、自動人形……。ありえざる人や物を眼前に見ることく精巧に描きだし、読者に現実と非現実の境を踏みこえさせる物語作家ミルハウザー。本書は彼の作品中でもそのメタフィクションのめくらましの巧みさにおいて一二を争う凝りに凝った短篇集である。

『千夜一夜物語』のテキスト解説をやりながら、その間にかの物語には存在しないシンドバッド八番目の冒険譚を語る「シンドバッド第八の航海」。頭のなかでとめどなく想像力が膨らんでいく青年が、ついには一人の美しい女を創造し、さらに彼女にまつわる物語を生きてしまう「ロバート・ヘンディングの発明」。不思議の国のアリスに題材を取り、えんえんと縦穴を落下しつづけるアリスの眼前に現れるさまざまな物体と、彼女の頭に去来する想念を克明に描く「アリスは、落ちながら」。探偵ゲームをプレイする四人の男女とゲームの登場人物の人生のひとコマが交互に語られる「探偵ゲーム」など、読者の頭を楽しい混乱に陥れる、趣向を凝らした十篇。

(柴田元幸訳 新書判 三四七頁 本体一一〇〇円)

「U141」『すべては消えゆく』
アンドレ・ピエール・ドマンディアル[作]

半世紀にわたる作家生活を通してエロスと死を題材に眩惑的な世界をくりひろげた作家ピエール・ドマンディアルは一九九一年に世を去った。八七年に発表された本書は結果的に彼の遺作となったが、作家自身はすでに生前からこれを自分の最後の本にすると言っていた。そしてこの小説の完成度は、まさに希代の文章家の白鳥の歌にふさわしい高みに達している。

物語の時はパリの美しい午後ひとときに限られている。男性主人公ユゴーはセーターと右肩シャバネ通りの自宅を出てパレ・ロワイヤル広場に降り、地下鉄に乗る。一番目の駅シャトレで乗り換えた彼は、車内で人念に化粧をする一人の女に目をとめる。途中駅で降りた彼女を追って引き返すユゴーを、女は駅のベンチで待っていた。女は彼の動きを首で追い、それは、餌食になりそうなものが手元に近づくとを虎視眈眈と待つ猫の姿にそっくりだった。二人はエロティックな凝った会話をかわしながらサンジェルマン界隈を歩き回る。やがて娼館に入った彼らが演じる性と血の儀式……。 (中条省平訳 新書判 一九三頁 本体九五〇円)

「U142」『編集室』
ロジェ・グルニエ[作]

旧、夜の寓話 改題

短編小説の名手、ロジェ・グルニエが自らのジャーナリスト体験をもとに描いた本書には、焼身自殺者、窃盗少年、脱走兵、殺人犯、有名人の替え玉、不運だがどこか滑稽な新聞記者など、さまざまな人間が登場する。これらの人物のほとんどすべては、みな社会から弾き出された被害者たちだ。

グルニエは、こういう社会の除け者たちのなかに人間らしさを認め、ときには一種の連帯意識や愛情を示している。そして、淡々とした、あるいは、しみじみとした語り口で、ときにもの悲しく、ときに軽妙洒脱、ときに抒情的に、これら事件の陰にひそむ人々をあたたくく描いている。

仕事が終わって大方の記者たちが引き揚げて夜明けの新聞社の編集室。一人の記者がペンを走らせる……。そこには、新聞ダネ になる登場人物たちが、夜のじまに躍っている。『夜の寓話』という表題で刊行されていた作品の待望のUブックス化。

(須藤哲生訳 新書判 二二二頁 本体九八〇円)

青土社 / 白水社 / みすず書房 ジョイントフェア
~ 大人の本棚 ~

読書好きな大人のために、各分野の古典や上質のエッセイ他、時代を超えて変わらない内容を備え支持されつづける書籍を集めた、3社連合のブックフェアです。10月中旬から約1ヶ月間、首都圏の有力50店舗で開催。詳細は版元までお問い合わせ下さい。

編集者メモ

断簡零墨をもらさずというの個人全集編集の常道といえよう。そこにこそ全集刊行の意味がある。片言隻語のなかに作家・思想家の本質がくさされているとの願いがこめられてもよい。その個人全集の刊行が今このほかにきびしい。大作家といえども代表作はせいぜい三篇か四篇だ。このきびしい出版不況の折、断簡零墨でもあるまいということが、長年二つ

営 業 部 だ よ り

仕事で書店に出かけると普段気がつかないような本が目にとまる。最近では職業関係の本がそう。その道数十年のベテランが描くエッセイはなかなかおもしろい。たとえばJRの車掌さん。乗務するはずの電車に乗れなかつたときのこと、深夜の酔客にてこずったことなど。帝国ホテルの営業マンの話も印象的。昔は満室になるまで夜遅くなくても客引きをしたとか。体験談を綴った書籍ではなく、第三者が見た職場エッセイもおもしろい。9月刊行の『山の上ホテル物語』はこ

【お願い】 住所表記が変更になりましたら、御名前、新住所・旧住所、お届けいたしております本紙のお客さまコードをお知らせください。